

## 農協はどこへ向かうのか

組合員の減少による利用率の低下や金融体質の強化のためということで合併が進み大型農協がどんどん誕生してきました。その中で様々な歪みも出てきております。農協が大きくなって行くと同時に組合員もだんだん元気になっていけば良いのですが、実際はその逆で益々悪くなったという声を頻繁に聞きます。

販売の効率化ということで、大きなセンターを作り、そこから大量に消費地へ輸送する。まさにアメリカ的な農業の発想ではないでしょうか。それはアメリカの作った土俵で勝負を仕掛けている様なもので、価格では到底太刀打ちできるはずがありません。

今消費者が求めているのは、顔が見え安心できる物、他とは違った個性のある物だと思います。今の広域から集めた物をただ一緒くたにして販売するやり方では、それに対応することは難しいと思います。

広域ということは、様々な個性、特質を持った者の大きな集合体であるはずですが、それらをひとまとめに平準化するのではなく、個々のプラスの部分を生かしどんどん活性化させていく、そしてこの個別に分離した活性態をうまく組み合わせ、機能させることがこれからの役割ではないかと思います。一見コスト削減からすれば逆行する考え方かもしれませんが、コストを削減して安く売っているのであれば意味がありません。その労力と活力が付加価値であり、付加価値をつければつけるほど競争力のある販売につながり、それが農家自体の元気につながるということをもっと考えるべきだと思います。

(青森県弘前市 有限会社まごころ農場

代表取締役 齋藤靖彦)

E-mail : y\_saitou@mvi.biglobe.ne.jp